

コロナ禍により新たな視点で同窓会活動に取り組む 松原秀幸

(高19回 在京飯田高校同窓会会长)

『稲穂』発刊に際し、多くの皆様から寄稿をいただき、また、協賛広告、協賛金、サポートー支援と、資金面でもご支援も頂きました。厚くお礼申し上げます。

はじめに、同窓会誌『稲穂』の発行にご尽力された平田達さん（中47回）が、この春にご逝去されましたことをお知らせ致します。在京同窓会長として、また『稲穂』の特別編集委員として、長年、同窓会に貢献されました。この場をお借りして、生前のご功績に感謝し、ご冥福をお祈りいたします。

なお、この『稲穂』発刊の思いを、創刊号にて語られておりますので在京ホームページよりご覧ください。
コロナ禍は、社会生活を一変、我々同窓会活動にも大きな変化をもたらしました。近い将来の大規模地震等の自然災害に備える取り組みは、2005年の内閣府公表「事業継続ガイドライン」で、BCP策定を企業や組織に推奨。その後、2011年の東日本大震災を契機に、最近の大型台風や水害による社会生活への影響や企業のサプライチェーン^(注2)への影響が多発し、BCP策定が加速。また、ICT^(注3)の導入が急速に進みました。

この想定外の感染症の蔓延は、局所から広範囲な社会生活まで影響をおよぼしました。特に企業等の勤務形態への影響は大きく、「出勤しない・人と会わない」ためのコミュニケーションツールが急速に発達しました。幸いなことに、同窓生メンバーにはこのICTツールを駆使する人が多く、このコロナ禍で同窓会活動を乗り切ってきました。特に昨年の定時総会に代わるオンラインイベントの開催は総会幹事学年の技量の高さを誇りました。

同窓会活動にとって一番大事な「実際に会って話をする」コミュニケーションができなくなりました

組織目的と役割を明確化。多くの皆様の活動への参加を期待します。

今年度の活動は、昨年策定しました「活動方針」および活動の進め方「時代の動きに合わせ部会体制の強化や役割の見直しを行い、必要に応じて部会の新設置をして参ります」の具現化として、「多くの同窓生に同窓会活動への関心と理解をいただき、積極的に参加をしていただく」ため、新たな視点で「持続可能な同窓会活動を目指して」組織活動を進めるターニングポイントとなりました。

組織目的と役割を明確化。多くの皆様の活動への参加を期待します。

今年度の活動は、昨年策定しました「活動方針」および活動の進め方「時代の動きに合わせ部会体制の強化や役割の見直しを行い、必要に応じて部会の新設置をして参ります」の具現化として、「多くの同窓生に同窓会活動への関心と理解をいただき、積極的に参加をしていただく」ため、新たな視点で「持続可能な同窓会活動を目指して」組織活動を進めるターニングポイントとなりました。今年度定時総会に提案および報告を致します。

ＩＴツールを活用。同窓生の輪を広げる取り組みを行います。

- 便利なコミュニケーションツールを有効活用、卒年別組織の結成と活性化を推進。
- 情報発信（共有）を促進し、仲間を知る（現在約1000名加入、新規登録を期待）。
- 同好会「たかまつ会」を早期再開し、先輩・後輩を繋ぐ場を増やします。

令和3年度在京同窓会定時総会（11月13日（土））について

本年の定時総会は、昨年同様オンライン（Zoom）開催と致します。「役員改選」「会則変更」等の重要な議案の付議を致します。昨年は約200名のご参加をいただきました、本年も多くの皆様のご参加をお願い申し上げます（簡単に参加できます）。

詳細は「令和3年度在京飯田高校同窓会定時総会のお知らせ」（97ページ）をご覧ください。

●まづら・ひでゆき

上飯田出身。高校は放送委員会、落語班（創設メンバー）。1971年沖電気工業入社。通信システム事業に従事、OKIコンサルティングソリューション社長・現フェロー。テレワーク勤務（週2、3日）、休日は1週間に1作品程度の本読みとスポーツLIVE観戦、同窓会活動などで過ごしています。



(注1) BCP (Business Continuity Plan) 「事業継続計画」 企業や組織による、大規模な自然災害やテロ、システム障害などの不測事態に遭遇しても、重要な業務を早期復旧し、事業継続を図る計画。

(注2) サプライチェーン（supply chain） 商品が消費者に届くまでの「原料調達」「製造」「在庫管理」「物流」「販売」等の流れ。

(注3) ICT (Information and Communication Technology) 「情報通信技術」 通信技術を活用したコミュニケーション。